



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	留学生と読書
Author(s)	吉田, 昭子
Citation	文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要 49 (2018-01) pp161-166
Issue Date	2018-01-31
URL	http://hdl.handle.net/10457/2753
Rights	

留学生と読書

International Students and Reading

吉田 昭子

Akiko Yoshida

要旨

グローバル化が進展し、大学は世界で活躍するグローバルな視点を持つリーダー等の育成を求められている。積極的な留学生の受け入れが政策として推進される中で、留学生に対する支援の重要性が指摘されている。

本稿では留学生が安心して勉学に専念できる大学を目指して、読書環境の側面から留学生支援を考える。大学1年生の留学生に日常的な図書館利用状況、利用経験、図書館に対する期待等をたずねた。留学生は身近な読書環境である図書館を静かな場所、勉強する場所という固定的な概念でとらえている。その一方、来日して日本の図書館を使うことで、自分で探す楽しさを知り、図書館の使い方を学ぶ必要があることに気付いた留学生もみられた。日本人学生、留学生を問わず、読書離れが進む中で、読書の楽しみを実感できる読書環境づくり、読書支援の面で一層の工夫が必要であることが明らかになった。

●キーワード：留学生 (international students) / 読書 (reading) / 図書館 (library)

I. はじめに

1.1 グローバル化の進展状況と留学生数の現状

社会のグローバル化が進展する中で、大学は世界で活躍するグローバル・リーダーの育成とグローバルな視点を持ち、地域社会の活性化を担う人材を育成するための効果的な取組を求められている。2018年以降に日本の大学では18歳人口の急激な減少が予想されている。その対応策として、留学生獲得の必要性が指摘されている。国際化を促進し、教育・研究力を向上するために、優れた外国人留学生（以下留学生）を積極的に受け入れることが大学の最重要課題である。

留学生数の増加は国の方針として計画されている。1983年には中曽根内閣によって「留学生10万人計画」が提言され、2003年に達成された。その後、2008年には2020年を目処にした「留学生30万人計画」が提唱された。この計画は、アジアや世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大しグローバル戦略を展開する一環として位置づけられている。したがって、留学生をひきつける魅力的な大学づくり、安心して勉学に専念できる環境づくり、卒業後の社会での受け入れ体制の整備等の必要性が高まっている¹⁾。

日本学生支援機構が実施した「外国人留学生在籍状況調査」²⁾によると留学生数は、2011年に発生した東日

本大震災の影響を受けて2012年度に一端減少したものの、2015年には20万人をこえ、2016年度には239,287人に達している。出身国別人数は2017年度の上位5位は、中国(98,483人)、ベトナム(53,807人)、ネパール(19,471人)、韓国(15,457人)、台湾(8,330人)、中国とベトナムからの留学生が6割以上を占めている。東京に留学している学生(92,534人)は全体の4割弱にあたる。

これらの現状は、日本がアジアからの留学生にとって安全・安心な国、留学に適している国、学ぶ場所としてふさわしい国であると受け止められていることを示している。それだけに、魅力的な大学づくり、勉学に専念できる環境、卒業後の社会での受け入れ体制等についての一層の工夫が求められている。

1.2 留学生への支援

言葉や環境が大きく異なる国で日々を過ごす留学生には様々なストレスがかかる。留学生の受け入れが急速に進む中で、留学生に対する支援の必要性が指摘されている。

留学生の支援の担い手は、留学生の日常生活に関わる留学生担当教員、職員、事務担当者、指導教員、カウンセラーだけではなく、知人や友人など多岐にわたる。日

本人学生と留学生の交流活動を通して、ピア（仲間）として多角的な留学生支援活動を実施して効果をあげている例もみられる³⁾。また、国際コミュニケーションセンターを中心とした留学生と日本人学生との協働や学内の学生会による交流促進等、教員やカウンセラーだけではなく、学生同士の相互支援活動の実施による効果も指摘されている⁴⁾。留学生センターにサポート・デスクを設置し、教員と職員が共同で学生スタッフの募集、研修等を実施している事例⁵⁾、⁶⁾もみられる。

このように、各大学では留学生問題の多様化、複雑化、留学生受け入れの拡大に様々な手立てを講じているのである。

1.3 留学生への図書館による支援

国際交流センターや留学生センター以外に、大学図書館で留学生支援を実施している事例もみられる。留学生向けの図書館案内ツアーを企画したり⁷⁾、学びの場における人的支援の一環として留学生協働による学習支援、留学生コンシェルジュサービスを実施したりしている例もみられる⁸⁾、⁹⁾。

日本図書館協会多文化サービス委員会は、大学図書館が行っている留学生等を対象としたサービスの実態についての調査を行っている。この調査は、2015年7月から8月にかけて、大学図書館、短期大学図書館、高等専門学校図書館等の中央館にアンケート用紙を郵送し、Web入力等で回答する方式で実施された¹⁰⁾。

留学生への図書館サービスに関する調査は、1998年にも日本図書館協会障害者サービス委員会によって実施されており¹¹⁾、2015年調査は2回目にあたる。質問は16問で構成され、質問内容と調査結果の概略は第1表のとおりである¹²⁾。

第1表 留学生への図書館サービス調査

質問	質問内容	2015年調査結果
1 サービス対象者数	大学全体の留学生数、外国人研究者数	1998年調査の2倍に増加
2 業務指針	有無（ある場合どんな指針か）	指針有5%
3 他部署との連携	有無（ある場合の頻度）	有 34% 定期9%、不定期22%
4 留学生用資料	資料収集の有無、資料の内容・概数、コーナーの有無	収集提供有 39% コーナー有 21%
5 目録	多言語資料の目録作成への対応	多言語に未対応30%
6 検索	蔵書検索システムの多言語対応状況	多言語に対応39%

7 日本語以外の言語による情報提供	日本語以外の言語で書かれた利用案内、ウェブサイトの作成の有無	利用案内作成有26%、ウェブサイト作成有29%、館内掲示作成有24%
8 利用支援	留学生対象のオリエンテーションや利用指導等の実施の有無	オリエンテーション、利用指導有32%（日本語、英語）
9 対応マニュアル等	日本語が不自由な利用者向けの準備	マニュアル準備有18%
10 職員	外国籍の職員の有無、仕事	有11%（含非常勤等）
11 語学研修	勤務中の語学研修、語学習得経費補助の有無	語学研修有12%、経費援助有23%
12 要望調査	留学生の図書館サービス要望の有無	要望有16%、要望調査実施6%
13 情報源	留学生に対するサービスを実施する上で参考にする情報源	大学図書館の連合体37%、日本図書館協会25%
14 課題	留学生等への対応での課題	有43% （カウンター対応161館、利用案内整備155館、要望把握145館、マニュアル110館、担当部局連携93館、資料全般不足90館）
15 特徴的なサービス	具体例	利用支援11館、コーナー設置10館、ガイダンス9館、他部署と協力7館、資料の整備5館、講習会3館、交流イベント2館、日常的にコミュニケーションをとる2館等
16 その他	留学生サービス全体への意見	65館が回答（記述式）

1998年調査から17年間を経て、2015年には3割弱の図書館で利用案内やウェブサイト作成等が行われている。

特徴的なサービスに対する回答においても、各館で個別の努力が進められていることがわかる。この調査を実施した多文化サービス委員会の報告においても、留学生への図書館サービスの必要性が認識されつつあるが、今後に向けた実践例の積み重ねや情報共有等が必要な段階にあることが指摘されている¹³⁾。

II 本学における留学生

2.1 本学の留学生数

文化学園4校（文化学園大学、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）に在籍する留学生の総数は2008年には1,300人を超えた。東日本大震災で一時減少したが、1,500人あまりの留学生が学んでいる¹⁴⁾。

このうち、文化学園大学に外国人留学生入試で入学した留学生の数は、第2表に示したように23か国約416

人（2017年5月1日現在）に及んでいる¹⁵⁾。近隣アジア諸国（中国、台湾、韓国）からの留学生が9割を占めている。

第2表 出身国別留学生数（2017年5月1日現在）

出身国	人 (%)	出身国	人 (%)
中国	277 (66.6)	オーストラリア	1 (0.2)
台湾	49 (11.8)	カナダ	1 (0.2)
韓国	48 (11.5)	スウェーデン	1 (0.2)
マレーシア	10 (2.4)	スペイン	1 (0.2)
タイ	5 (1.2)	中国 (香港)	1 (0.2)
ベトナム	4 (1.0)	ドイツ	1 (0.2)
アメリカ	3 (0.7)	ノルウェー	1 (0.2)
フィリピン	2 (0.5)	ブラジル	1 (0.2)
ミャンマー	2 (0.5)	ベルギー	1 (0.2)
フランス	2 (0.5)	メキシコ	1 (0.2)
モンゴル	2 (0.5)	モザンビーク	1 (0.2)
アルメニア	1 (0.2)	合計	416

2.2 本学留学生支援の状況

新入留学生向けの特別ガイダンス・留学生懇談会、留学生のための日本語能力を高める授業等が行われている。「日本の文化」は留学生が日本で大学生活を送るために必要な考え方や知識を身につけることを目的としている。講義だけではなく「留学生研修旅行」、「茶道実習」、「歌舞伎鑑賞教室」等の体験型の授業を通じて、日本の歴史、文化、社会について知識理解を深めることができる。留学生間の親睦を図るための留学生会では、留学生の中から選ばれた役員によるイベント等の企画運営も行われている。

国際交流センター¹⁶⁾を中心として、セミナーや情報交換の場も設定されている。留学生だけではなく、全学の学生を対象とした学生相談室では専門カウンセラーに学生生活の悩み等を相談することができる。大学事務局、学生課等のスタッフによる日常的問題に対する支援が行われている。また、文化学園図書館では、文化学園4校に対して、図書館資料や施設の提供、図書館員による全学教員、学生に対する教育及び研究の支援をしている。

次に、留学生が安心して勉強専念できる大学を目指して、留学生の読書環境という面から留学生支援について考える。

III 留学生の読書環境

3.1 国際文化・観光学科留学生の図書館利用

国際文化・観光学科では1年生に大学生活に求められる姿勢やスタディスキルを習得することを目的とした授

業を開講している。この授業では「図書館の使い方や資料・文献調査の方法」、「文献講読の基礎技術」、「大学生活で必要とされる口頭表現の方法などのスキル」をとりあげている。2017年度の国際文化・観光学科1年生40名のうち、半数は留学生である。授業の中で現在の図書館利用について第3表の7つの質問をした。

第3表 留学生の現在の図書館利用状況

質問内容	回答人数 (回答総数 18人)
①利用する図書館の種類 (複数回答)	大学 (10人 55.6%) 公共 (9人 50%)
②図書館利用頻度	月1回 (4人 22.2%) 月2回 (2人 11.1%) 週1回 (4人 22.2%) 利用しない (8人 44.4%)
③どんな時に利用するか (複数回答)	資料探し (6人 33.3%) 無 (3人 16.7%) 暇な時 (3人 16.7%) テスト準備 (3人 16.7%) 本を見たい時 (3人 16.7%) 復習する時 (2人 11.1%) 勉強したい時 (2人 11.1%) 日本文化を理解したい時 (1人 5.6%)
④レファレンスサービスを知っているか	知っている (6人 33.3%) 知らない (12人 66.7%)
⑤レファレンスサービスを使ったことがあるか	ある (4人 22.2%) ない (14人 77.8%)
⑥図書館への期待	ない (5人 27.8%) 静かなこと (2人 11.1%) Wifiがほしい (2人 11.1%) いろいろな本 (1人 5.6%) 小説がほしい (1人 5.6%) ソファがほしい (1人 5.6%) ベッドがほしい (1人 5.6%) 読書に全く興味のない人でも行きたくなる図書館 (1人 11.1%) 話ができる場 (1人 11.1%) 無記入 (3人 16.7%)
⑦最近読んだ本	雑誌 (2人 11.1%) 教科書 (2人 11.1%) ない (2人 11.1%) 韓国の作家の中国の本 (1人 11.1%) 『春琴抄』 (1人 11.1%) 『刀語』 (1人 11.1%) 『西遊記』 (1人 11.1%) 無記入 (8人 44.4%)

図書館利用経験のある5割程度が大学図書館か公共図書館のどちらかを利用したことがあると回答している。利用頻度については、5割が図書館はほとんど利用しないと回答している。どんな時に利用するかという問いに対しては、本や資料を探す際、勉強する時、暇な時という回答をしている。

図書館が実施している利用者の調べものを手伝うサービスであるレファレンスサービスを2割程度の学生は言葉としては知ってはいるが、8割が実際に使ったことはないと答えている。これは図書館が留学生にとって、ま

だ特別な場所であり、図書館を十分に利用していないこと、図書館が日常生活の中での居場所になっていないことを示している。

図書館に対する期待については、静かな環境や豊富な所蔵資料の収集に対することが多くみられる。その一方で、場としての図書館への要望として、滞在時により居心地を良くしたいというソファやベッドの設置やWifiの利用環境等の整備もあがっている。また、読書には興味のない人でも行きたくなる図書館がほしいという要望もみられ、本を読むだけでなく、安心して勉強に専念できる場、心が安らぐ場がほしいという欲求が感じ取れる。

日本人学生の読書離れ傾向と同じように、留学生の図書館利用においても、利用しないという回答が4割以上に及んでいる。最近どんな本を読んだかという質問に対しては、教科書や雑誌があがっている。雑誌については、文化学園図書館が他では見ることができないファッション系の雑誌を豊富に所蔵していることが影響していると考えられる。

3.2 大学入学以前の図書館利用経験

大学入学前の図書館利用経験については、第4表の3つの質問をした。図書館の利用経験や図書館に対するイメージから、留学する前の経験を探った。

第4表 大学入学以前の図書館利用経験

質問	回答
①何歳頃から図書館を利用したか	5歳 (3人 16.7%) 小学校 (3人 16.7%) 6歳 (2人 11.1%) 7歳 (2人 11.1%) 8歳 (1人 5.6%) 12歳 (2人 11.1%) 13歳 (1人 5.6%) 15歳 (2人 11.1%) 高校生 (2人 11.1%)
②どんな本を利用したか	絵本 (4人 22.2%) 小説 (3人 16.7%) 童話 (2人 11.1%) 漫画 (1人 5.6%) 遊びの本 (1人 5.6%) 楽器の本 (1人 5.6%) ハリーポッター (1人 5.6%) 作文の本 (1人 5.6%) ディズニーの本 (1人 5.6%) 資料類 (1人 5.6%) 無記入 (2人 11.1%)
③図書館に対するイメージ (複数回答)	静か (8人 44.4%) 勉強の場 (3人 16.7%) つまらない (3人 16.7%) 特別な場所 (1人 5.6%) まじめ (1人 5.6%) 欲しい本が見つげにくいことが多い (1人 5.6%) 堅苦しい (1人 5.6%) 大きい (1人 5.6%) 和やかな雰囲気 (1人 5.6%)

70%以上の留学生が小学校時代に図書館を利用し始めている。そのため利用した図書も絵本や童話があげられている。図書館に対する最も多くのイメージは静かな場所というものである。勉強の場であり、まじめで堅苦しい、特別な場所というイメージを持っている。読書すなわち勉強、図書館すなわち静粛な場という固定概念が存在しているといえる。

3.3 留学生が図書館を利用した感想

留学生各自が利用したことのある図書館についての感想をたずねた。13人の学生から回答があり、6人が文化学園図書館、7人が公共図書館の利用についての感想を述べている。

<文化学園図書館>

○図書館の特徴

- ・静かで勉強の雰囲気が感じられる。
- ・各種類の本がそろっている。
- ・広くて沢山の本をみられる。
- ・専門図書だけではなく、雑誌もみられる。
- ・パソコンが利用できる。
- ・机がたくさんあって、便利である。
- ・自習ができる。
- ・大学の図書館だから学生と先生が利用している。
- ・大学の授業のためのいろいろな本がある。
- ・図書や雑誌が豊富で、ファッション誌が充実している。
- ・休憩室がある。
- ・学生は無料で利用できる。

○図書館を利用した感想

- ・静かな環境なので、集中できる。
- ・欲しい本をさがすことができる。
- ・様々な知識を学ぶことができる。
- ・自分で好きな本を探して勉強することができる。
- ・授業以外の時間でも近いのですぐ行くことができる。
- ・豊富な資料がある。
- ・世界各国のファッション雑誌を見ることができる。
- ・Wifi環境が整備されると使いやすい。
- ・図書館では他の人と話して相談ができない。
- ・案内板が小さい。もう少しマークは具体的なほうがよいと思う。

＜利用したことのある公共図書館＞

○闵行区図書館（上海）

・あらゆるジャンルの本がそろっている。なによりも各国の新聞がみられる。家に近くて便利だが、会員でない人はお金がかかる。

○流山市立おおたか図書館

・図書館は風と光を取り入れ、中庭には緑の溢れる解放感のある室内環境、小中学校併設の緑豊かな施設である。図書館の利用は無料で貸出もでき、新聞、雑誌を読むことができる。休憩と勉強ができるところがよい。

○調布市立図書館国領分館

・お年寄りの利用が多く、本よりも新聞を読んでいる方が多い。自習のために来ている方は少ない。小説や辞書などの本はもちろん専門書籍も割合に多い。机やいすがもう少し多いと便利だと思う。

○六本木の図書館

・図書館にはほとんどパソコンや雑誌コーナーがある。最近、いろいろな図書館にソファやCafe ショップなどの場所が増えている。本をはやく探すために新しいシステムが導入され、時代の進歩に伴って図書館の設備も更新されている。

・六本木にある図書館に行ったときに、現在の図書館の発展を感じた。たとえば、図書館の中で人々がリラックスできるように音楽が流されていた。心をいやす効果があって、本を読むことをもっと楽しむことができる。お客さんたちを家にいるような快適な雰囲気を感じさせていた。

○武蔵野市立図書館

・本が沢山あって、わかり易く分類されている。図書館内が静かで落ち着く環境である。短期間に使う本は買わずに借りて利用できる。沢山の本があるので、欲しい本をはやく見つけるには図書館の使い方を勉強する必要があると思った。

読書すなわち勉強、図書館は静粛な場という固定観念にとらわれる一方、図書館の良さに気づく留学生もいる。豊富な情報の中から、自分で本を探し楽しさ、面白さから、図書館の使い方を学ぶ必要があると考え、時代の進歩に伴って新しいシステム導入を学んでいこうとし

ている。自国と比較して、図書館が無料であるという驚き、多様な場の展開（休憩や勉強の場、快適な雰囲気づくりの場、世界各国の雑誌や新聞のある自国語の文化とのふれあいの場 etc.）従来の図書館の概念を砕く努力を利用者である留学生、日本人学生、図書館員がしていくことがまず第一である。

IV おわりに

4.1 各大学の個性にあわせた支援

留学生の読書支援という観点で、国際文化・観光学科1年生の留学生の図書館や読書との関わりについてみてきた。1.1で述べたように、留学生の増加は国策として推進されており、留学生数は確実に増加している。留学生と大学をめぐる環境は急速に変化しているが、具体的にどのような支援が必要であり、どのように行えばよいかは必ずしも具体的に明らかにされているわけではない。

留学生に対する読書支援という視点からみると具体的には何をどのようなことを行えばよいのか。1.3で取り上げた第1表「留学生等への図書館サービス調査」結果にみられるように、各図書館が利用支援、コーナー設置、ガイダンス、資料整備、講習会、交流イベントの開催等、多様なサービスを展開している。

その多様さは、各大学の規模や学部組織構成、専門分野の違い、連携の在り方等の違いを反映している。各大学がどのような形で留学生の読書支援を展開したらよいのか。それぞれの大学が持つ固有の環境や個性を尊重し、考え併せなければならない。それぞれに所属している留学生の読書活動や図書館利用の動向を詳細に調査して、その要望をくみ取る必要がある。

4.2 ともに学ぶ環境づくりの工夫

留学生は図書館についてたずねると、静かなところ、勉強する場所、まじめな場所、特別な場所、堅苦しい場所といったイメージを持っている。日本人学生に図書館に対するイメージをたずねると、同じような回答が返ってくる。その一方、日本の図書館を利用して、その豊富な蔵書に驚き、これからは図書館の使い方を学ぶ必要があると考えている留学生もみられた。読書離れの傾向が進む中で、日本人、留学生を問わず、読書する喜びや図書館を使いこなす楽しみを実感できる読書環境づくりの工夫が必要になっている。

まずは、日本人学生にとっての身近なグローバル化は

学内における留学生とのピアサポート等の機会を大切に、留学生と日本人学生が共生する。そして、お互いの体験や驚きを共有し、ともに学びあう環境作りを目指すことである。

今回の調査は、国際文化・観光学科の留学生を対象として実施した。今後の課題は次の2点である。1つは、日本人学生を含めた読書支援のあり方を調査すること、2つ目は、今回の調査結果を基に、図書館員等の感想を集め、読書環境作りの具体的な手立てを探ることである。今後は、こうしたきめ細かい実践の積み重ねが必要である。

参考文献

- 1) 文部科学省「留学生 30 万人計画」骨子 (<http://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/rireki/2008/07/29kossi.pdf>) (参照 2017-11-1)
- 2) 学生支援機構「平成 28 年度外国人留学生在籍状況調査結果」(http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2016/index.html) (参照 2017-11-1)
- 3) 後藤綾文, 川島一晃. 留学生支援におけるピアサポートの視点: 「留学生支援実践」の取り組みから. 大学交流研究: 三重大学授業研究交流誌. 2014, no.22, p.115-121.
- 4) 正楽藍. 第 5 章ピア・サポート活動としての留学生支援: 高等教育の国際化の中で. 2011, p.55-72. (学生による学生支援活動の現状と課題) (参照 2017-11-1)
(<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/31430/20141016181443840097/RIHE112.pdf>) (参照 2017-11-1)
- 5) 青木麻衣子, 高橋彩. 留学生サポート・デスク一年の軌跡. 北海道大学留学生センター紀要. 2009, no.13, p.118-134.
- 6) 奇春花, 石井治恵. 北海道大学における留学生ピア・サポート: 留学生サポート・デスクの取り組み. ウェブマガジン『留学交流』. 2013, vol.28.
(http://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2013/_icsFiles/afiedfile/2015/11/19/201307kichunhwa.pdf) (参照 2017-11-1)
- 7) 兵藤健志. 九州大学附属図書館における外国人留学生に関する一考察: 平成 23 年度中央図書館ツアー実施報告. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2011, 2010/2011, p.31. (<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/recordID/20107>) (参照 2017-11-1)
- 8) 東北大学附属図書館情報サービス課. ラーニング・コスモスにおけるピア・サポート: 留学生コンシェルジュの導入事例報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2014, p.45-49.
- 9) 西村美雪, 大友美里, 吉植庄栄. 東北大学附属図書館本館留学生コンシェルジュ 5 年間のあゆみ: 図書館における急増する留学生サポートへの挑戦. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2017, p.95-104.
(https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=106987&item_no=1&page_id=33&block_id=38) (参照 2017-11-1)
- 10) 日本図書館協会多文化サービス委員会. 多文化サービス実態調査 2015 報告書. 日本図書館協会, 2017, 227p.
- 11) 日本図書館協会障害者サービス委員会. 「留学生等への図書館サービスに関する調査」報告書. 1999, 27p.
- 12) 日本図書館協会多文化サービス委員会. 留学生等への図書館サービスから見えてきたこと. (<http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/tabunka/171013jla15ryugakusei.pdf>) (参照 2017-11-1)
- 13) JLA 多文化サービス委員会. 「多文化サービス実態調査 2015」調査結果中間報告. 図書館雑誌. 2016, vol.110, no.9, p.594-597.
- 14) 文化学園国際交流センター概要 (<http://www.bunka-international.com/outline/gaidance.htm>) (参照 2017-11-1)
- 15) 文化学園大学. 留学生サポート. (<https://bwu.bunka.ac.jp/campus-life/foreign-students.php>) (参照 2017-11-1)
- 16) 文化学園大学. 国際交流センター. (<https://www.bunka-international.com/outline/index.htm>) (参照 2017-11-1)